

① サヘルさんは日本語が堪能ですね。どのようにして高度な日本語力を身に付けられたのですか？

日本語は、私にとって「生きるための言葉」でした。

日本に来たばかりの頃、言葉がわからないことで孤立を感じたこともありました。

だからこそ、一つひとつの日本語を「心で覚える」ようにしてきました。

学校や教科書よりも、人との会話、テレビや本、現場の空気から学びました。

間違えてもいいから伝えたい。

その思いが、今の私の日本語力を育ててくれたのだと思います。

② sns で新しいこと、今まで興味がなかったことを知ろうとしても、アルゴリズムで似たような情報が出てきます 何かいい方法はありますか

確かに、SNS では自分が「いいね」したものに近い情報ばかりが流れてきますよね。

でも私は、ときどき「自分の興味とは真逆の言葉」を検索します。

たとえば、まったく知らない国のニュースや、

普段関わりのない分野の専門家の投稿や、

興味の無いテーマに本やドキュメンタリーに自分から触れてみる。

意見が違う人の言葉に触れると、最初は少し不快でも、世界の見え方が広がるんです。

「心地よさ」の外に出る勇気。

それが、本当の意味で知るということかもしれません。

③サヘルさんの日本語はとても澄んでいて、美しい日本語でした。どうしたら、そんな風に少しでも近づくことができるのでしょうか。もしよろしければ、サヘルさんが普段から選ぶ言葉や表現方法など意識されていることがあれば、ぜひ教えていただきたいです。

ありがとうございます。

私はいつも、「日本語は音楽のような言葉」だと感じています。

1 つひとつの言葉の間にマがあり、沈黙にも意味がある。

だからこそ、言葉を選ぶときは「きれいに話す」よりも、

「相手に届くか」を大切にしています。

日本語を学ぶうちに気づいたのは、

「文法」よりも「温度」が人の心を動かすということです。

たとえば「ありがとう」も、「声のやわらかさ」で意味が変わる。

だから私は、どんな場面でもまず「相手の呼吸を感じてから」言葉を発します。

普段から心がけているのは、

言葉の前に、いったん「間」を置くこと。

その言葉を聞いた相手がどう感じるか、少し想像してみることに。

言葉は道具でもあるけれど、その前に、ひとつの命だと思っています。
だから私は、日本語を「使う」のではなく、「育てる」ように生きています。

- ④ サヘルローズさんが「矛盾」について後のトークセッションで語ります。ということでしたがそれがどの言葉で語られたのでしょうか。聴き逃したのか理解が至らなかったのか知りたいと思います。
- ⑤ サヘルさんが登壇の時に、最後のトークセッションでお話しますとおっしゃっていた内容はトークセッション内で聴けた内容のことでしょうか。その内容についてお話が聞きたかったです

私が「矛盾」として話したのは、まさにこのことです。

人類は「気候変動を止めよう」と声を上げながら、
その一方で、空から爆弾を落とし、地上を焼いています。
戦争が起されば、まず破壊されるのは森と水と大地。
環境破壊と戦争は、実は同じ線上にあります。
けれど私たちは、それを別の問題として語ってしまう。
それが、いまの社会の矛盾です。

環境問題を語る国が、同時に武器を輸出する。
「平和」を掲げる国が、他国の爆撃を黙認する。
正義という言葉の裏に、いくつもの矛盾が潜んでいる。

でも、矛盾は「悪」ではないと思うんです。
私たちは、矛盾を抱えながらしか生きられない。
大切なのは、その矛盾に鈍感にならないこと。
世界の痛みを他人事にせず、「なぜ」と問い続けること。
それが、人間としての誠実さだと私は思います。

- ⑥ 未読なのでわからないのですが
本日朗読頂いた「Dear」は16人の子供さんの話が載っているそうですが、
「16」は何か意味があるのですか？

この本に出てくる16という数字には意味があります。
15人の子どもたち、そして1人の私です。
合わせて16人が、それぞれの視点で『平和とは何か』を考えた物語です。
つまり、16人が考える平和。子どもたちの声と、私の祈りが重なった数なんです。

⑦ サヘルさんはどのようなきっかけで日本へ来られたのですか？

私はイランで生まれ、幼いころに戦争のさなかに家族を失いました。

その後、8歳で養母に出会い、養子縁組をしました。

1993年にご縁があり、日本に来ました。

ですから、私にとって日本は第二の母国であり、人生をやり直す場所でもあります。

図書館等でもし良かったら私の本を読んでいただけたら嬉しいです。

よろしくお願いいたします。

⑧ 今回、言葉の大切さについてお話しされていましたが、特に日本で顕著な「察する」文化についてどうお考えでしょうか？

「察する」という文化には、優しさと危うさの両方があると思います。

相手の気持ちを言葉にされる前に感じ取る。

それは、とても繊細で美しい心の動き。

でも、その一方で、言葉にできない苦しみや助けを求める声が、

察してもらえないまま、埋もれてしまうこともあります。

私は、日本で生きる中で何度も沈黙の重さを感じてきました。

「言わなくても伝わる」と思うことは、時に優しさであり、時に無関心にもなり得ます。

だから私は、言葉を選ぶとき、「察する」より「確かめる」ことを大事にしています。

沈黙を恐れず、けれど沈黙に甘えずに。

言葉でつながる努力を続けることが、

察する文化をより豊かにしていくのではないかと個人的に思います。

⑨ 日本人は変わらないといけないでしょうか？

イエスの場合は、その理由と具体的な内容をお聞かせください。

「変わらなければいけない」というより、

気づき直す時期に来ているのだと思います。

日本には、思いやりや調和を大切にする、素晴らしい文化があります。

けれど、その優しさが時に「沈黙」や「我慢」という形に変わってしまうこともある。

人を傷つけまいとして、自分を傷つけてしまう。

それが、今の日本社会の静かな痛みではないでしょうか。

変わるべきなのは、そうした閉じた優しさです。

本当の優しさは、言葉を交わし、違いを受け入れるところから生まれます。
だからこそ、日本の方が少しずつ
「対話する文化」へと歩み出すことが大切だと思います。

変わるというのは、
日本らしさを捨てるのではなく、
その中に眠っている本来の温かさを取り戻すこと。
私は、そういう意味で「変わる」ことを、恐れずに選んでほしいと思っています。

⑩ 又お話を聞きたいです
イベント等お知らせ頂けたら嬉しいです

うれしいお言葉をありがとうございます。
ぜひまたお会いできる機会をつくりたいです。
今後のイベントなどは、私の事務所 HP や SNS でもお知らせしていますので、
ぜひチェックしていただけたら嬉しいです。

⑪ 質問ではありませんが、シンポジウムの休憩時間に Amazon で「DEAR」を注文しました。

ありがとうございます。
休憩時間に『Dear』を注文してくださったなんて、本当に嬉しいです。
この本は、子どもたちの声と「平和」への願いを込めた一冊です。
どうかページを開くたびに、彼らの想いがそっと届きますように。